



学校評価報告2 ～学校評価を活かした学校経営の改善について～

本年度の学校評価についてアンケート結果を分析しまとめましたので、前号に続き報告いたします。ご意見、ご感想等をお寄せいただければ幸いです。

1. 学校評価の状況（前号ならびに裏面参照）

本年度も内部評価として生徒・保護者・教職員を対象に1学期末と2学期末の2回アンケートを実施しました。1・2学期の比較では、項目により達成率に増減が見られるものの、全体的に微増しています。アンケート回収率は、生徒95%、保護者71%、職員100%でした。アンケート集計結果を元に教職員でまず分析と協議を行い、次に外部評価として学校運営協議会委員にも検討・協議いただき、今年度の成果と課題を確認しました。

2. 学校評価から見える学校経営上の成果と課題

1) 学校運営・教育実践について

- ・経営方針や合い言葉を基本とした学校づくりに対してはおおむね保護者の理解をいただけており、今後も継続した取り組みを行う中で、合い言葉が示す姿を「当たり前」のこととして生徒が実践できるよう努めていくことが大切であると考えます。

- ・約90%の生徒が学校生活を「楽しい」と感じている。良好な交友関係が築けており、行事や部活動に意欲的に取り組んでいる生徒が多いことが大きな要因であると考えます。しかし、いじめのない居心地の良い学級と答えた生徒が79%であることや、いじめに係る学校の取り組みが十分だとする保護者が76%であることを課題としてしっかり受け止めなければなりません。

2) 学習について

- ・授業に真面目に取り組んでいる生徒が多い。しかし反面、授業中に意見を述べたり、わからないところを質問できる生徒が少ない。また、家庭学習に真面目に取り組めたという生徒は多い(86%)が、自主学習や教科授業で出される課題への取り組みは個人差が大きい。このことから、主体的に学習できる生徒の育成と議論する力や表現する力(話す・書く)を伸ばしていくことが重要課題であるといえます。

3) 生徒指導・学校生活全般について

- ・「あいさつ」については生徒の86%がしっかりできたと回答しているが、保護者、教師からの評価はやや厳しいです。あいさつを受けたら返せる生徒がほとんどであるが、自発的にあいさつができる生徒はまだまだ少ないと言えます。

- ・登下校でのヘルメットの着用率は、昨年度よりも向上しています。

(生徒：93%→96%、保護者76%→84%、学校運営協議会委員79%→88%)

- ・しかし、びわ図書館前の直線道路で広がって自転車を走らせたり、大谷自工前のY字路では車が近づいていることをよく確かめずに車道の無理な横断をするなど、交通ルール違反や交通マナー無視の大変危険な運転が見られることがありました。幸いなことに、本年度は現在のところ、大けがをしたり、命に関わる重大な交通事故等は起きていませんが、より一層、交通安全に対する意識の向上を図ることが必要です。

- ・本年度も年間をとおして、また人権週間の学習を通して、一人一人がより良い人権感覚を身に

つけられるよう、様々な活動を仕組んできました。本年度は生徒会でも校内でのいじめ撲滅を目指し、様々な取り組みを展開してきました。3学期からは、2年生が全校のリーダー学年として生徒会本部を中心に全校への呼びかけと取り組みを続けています。

4) 家庭・地域との連携にかかわって

・生徒の携帯電話やスマートフォン所有が増え、情報モラルに対する認識の低さが懸念されます。本年度は5月のPTA総会で講演会を開催していただきましたが、今後益々、インターネット利用における専門知識の学習が必要です。生徒への指導の徹底のためにも学級や学年単位でのより実践的な学習を計画していきます。携帯電話やスマートフォンの所有は保護者の了解のもとですから、家庭と連携した指導も必要不可欠になります。

・学校からの情報発信は、たよりや通信等の紙媒体と、ホームページとで行っています。ホームページには学校だよりを掲載していますが、今年度は更新がたびたび遅れ、ご迷惑をおかけしました。次年度も定期的でタイムリーな更新に努めてまいります。

・今年度も95%を超える保護者の方に「緊急メール配信システム」に登録していただきました。今年度は約10回配信しました。「緊急」の名前がついていますので、驚かれた方もおられたようですが、即時性を考えると、緊急時の手段としてだけでなく、日常の広報手段としても大変有効であると考えます。次年度は授業参観や行事等についても通信等の紙媒体とともに活用していこうと考えています。

3. 学校評価から学校および教師に問われていること

1) 学校に問われていること

- ・合い言葉の実践化と行動化
- ・いじめのない学校づくりに努めること
- ・生徒が登下校時に地域で挨拶ができること
- ・ホームページの更新と情報発信
- ・生徒の地域活動への積極参加

2) 教師に問われていること

- ・授業の工夫・改善を行い、生徒が分かる授業づくりに努めること
- ・生徒の学力向上の具体的な方策
- ・家庭学習の習慣化を図る方策
- ・生徒一人一人を大切にされた学級づくり

4. 平成27年度の学校経営の力点

1) 感謝を念頭においた合い言葉の実践

「時を守り 場を清め 礼を正す」を基本とした学校づくりの継続

- ・遅刻のない学校 ・背筋と腰骨を伸ばし授業開始を待つ
- ・場所と自分の心を磨く清掃奉仕活動（無言掃除） ・下駄箱や教室の整理整頓
- ・さわやかなあいさつと返事、会釈 ・互いにいじめを許さない仲間（やさしさの空間）

2) 生徒が主体的に学習する授業の創造

- ・教師が、生徒にとってわかりやすくひきつける授業をめざし工夫する
（＝特別支援教育の視点に立った「誰もがわかる」「誰もが楽しい」授業・学級づくり）
- ・授業中の学習形態の工夫（ペア、班、グループの活用）と教え合い学習の実施
- ・授業および放課後や土曜授業を活用した基礎的基本的な知識・技能の習得
（反復トレーニングによる基礎基本の習得。家庭学習の習慣化と充実を図る。）
- ・心をたがやす道徳授業の展開

3) 保護者と地域とともに歩む学校

- ・定期的な通信の刊行とホームページの更新で学校の様子を保護者と地域に発信する。
- ・土曜授業を活用した授業参観の実施。（PTA総会、学校運営協議会委員の参観等）
- ・14年目を迎えるヨシ行けどんどん作戦で、PTA、地域の方々と協働、連携しながら、ヨシの植栽と清掃活動を行い、琵琶湖岸の環境保全に務めとふるさとを愛する心を育てる。